

でもあった。自動化と電算機の利用を先ず考えた。その一つとして、星を三列（実際には6列）に一群づつ写す。一列に二群づつにすると六群の星が一枚の乾板に写せることになる。星の光度によって、星像をコントロールするために、露出時間が可変になっている。制御盤で、観測時刻の設定、観測開始、終了に伴なう電源制御、降雨に伴なう屋根開閉装置、空の明暗による屋根開閉制御が行なわれる様になっている。また、焦点合せの操作、PZTの東西方向の設定テストも制御盤で行なうことが出来、一人の観測者がすべての動作を行ない、更には終夜の無人観測が可能である。ILS観測所の人手不

足を考えて、私の物臭さだけでなく、精度の他に特にこの点を考え、世界中で使ってもらえる様にといいことで設計をした。予算の関係もあり、極度に附属装置は節約して将来の必要により設備して行く予定である。

水沢新 PZT の諸元は

レンズ：口径 250 m/m

焦点距離 350 m/m

天体写真用色消レンズ

PZT 全重量 約 400 kg

ニコン（日本光学工業株式会社）製作。

（228頁よりつづく）

か、また彼が学んだイタリアの風景は意識にどのように作用したのだろうかなど思いは果てぬものがありました。もっとも、このような思考はニュートンとリンゴの関係のように動機づけを行なわなければ気のすまない人種のものでコペルニクスにとっては迷惑なことでしょう。

初めに書いた通り彼を記念する行事が各地であり、トルンのスタッフも招かれて出席しています。コペルニクスの生れた街にあるコペルニクスという名前の大学の天文台というのは、コペルニクスに関して何かを企画する際に重要な要素となるようです。このことは天文学者、非天文学者、また洋の東西を問わずあてはまる感じです。このことから容易に想像されるように、ビヴェツェの天文台にも見学者が沢山やって来て、時にはコペルニクスの使った望遠鏡はどれかなどと質問して説明のスタッフを苦笑させています。ここにはニコライ・コペルニクス様という宛名の手紙が舞い込むこともあるそうです。

イヴァノフスカから聞いたところでは、ローマでの式典でシアマが“宇宙の中の地球の運動”という講演をしたそうです。ハッブルの法則、X線のバックグラウンド成分、 3°K 放射の非等性から宇宙の中での地球の運動を検出しようというもので現在の精度では500km/sec以上の運動は検出可能ということです。また将来は地球の軌道運動もわかるだろうというわけです。この式典には大臣なども出席したのですが、ローマの天文学者達が無給の者にも職をとデモをかけたそうですが、効果のほどはさだかではありません。

さて、コペルニクスが現在も非常に有益で力のある人物であることを語らないわけにはいきません。コペルニクス生誕500年ということで彼に関連したことはよく予算がついたということで建物、道路の整備なども含ま

れる場合があったようです。そこでポーランド中の市町村がコペルニクスと何らかの関係がないのを真剣に調べたという笑話も聞きました。また来年以降の金の配分を心配している人もいます。コペルニクスは奨学金などの形で内外の多くの人々に恩恵を施しており、この面では私も足の向けかたに困っている次第です。しかし硬貨、紙幣にいるコペルニクスは最も敬愛すべき人物で、特に1000ズウォーティ（平均月収の4～50%にあたる）札にいるコペルニクスの神々しさは近來低落傾向の著しい聖徳太子の比ではありません。

ポーランドは第2次世界大戦で大きな被害を受けました。街は中心部を昔の通りに再建し、その周囲に新たに建設するという形で立ち直っていますが、戦争のもたらした傷を意識から消さないようにという努力も随所にみられ、ともすれば傷をかくそうとしている我が国とは対照的です。そして、この国での平和な生活をどのように維持していくかが切実な問題としてのしかかって来ているわけで、東西交渉、ブレジネフの西独、米国訪問のことなどがその意味でよく話題にのぼります。またコペルニクスがポーランド人であるということが否定された時に生ずることは第2次世界大戦ですでに経験しているところです。ですから、コペルニクス生誕500年を記念するさまざまなことの中にも、この国の人々の願いが感じられるのです。

掲 示 板

研究会「電波源の偏波」の集録

昨年12月野辺山で開かれた研究会の内容を中心に、電波源の偏波について総合的にまとめたものです。

御希望の方は、田原博人（〒181 三鷹市大沢東京天文台）に御連絡下さい。一部400円（約160頁）。